

(中間C)

評価委員会総合評価

研究課題名：エーロゾル－雪氷相互作用に関する研究

評価委員会

委員長：加納裕二

委員：菰澤 浩、露木 義、鬼頭昭雄、中村誠臣、上野 充、三上正男、
小林隆久、横田 崇、蒲地政文、緑川 貴、高橋 宙

評価年月日：平成24年3月13日

1. 総合評価

- | | | |
|--------------|--|---|
| (1) 継続の可否 | ☒ 継続 | ☐ 中止 |
| (2) 修正の必要の有無 | ☐ 修正の必要あり | ☒ 修正の必要なし |

2. 総合所見

雪氷面アルベドは、温暖化予測高精度化のみならず氷河の衰退原因究明などにも重要なテーマである。観測およびモデル化について基礎から実用までの研究を、少ない人員ながら国内外のプロジェクトとの連携を伴って適切に実施していると認められる。気候影響評価と紫外域放射モデルの高度化の課題に遅れが見られるが、アルベド物理モデルの SMAP モデルへの拡張、及び PBSAM モデルと SMAP モデルの地球システムモデルへの移植など、当初の目標以上の成果を挙げており、高く評価できる。

今後も気候、大気環境、防災など多様な分野で施策に活用可能な成果が見こまれる。成果が気象庁や気象研究所の気候解析や気候モデルなどに活用できるように連携を深めつつ、研究を進めてもらいたい。また、IPCC 第5次報告書にも成果が反映されるよう、成果をさらに論文にとりまとめるなど努力してほしい。